

平成 30 年度 アユ遡上調査結果

1. 目的

武庫川では、アユを武庫川のシンボル・フィッシュとして位置づけ、魚類にとってより望ましい川づくりに努めている。アユの遡上状況の把握を目的として実施した。

2. 調査概要

調査日程：平成 30 年 4 月 29 日 (8:50~15:30)

平成 30 年 5 月 28 日 (9:30~16:00)

調査方法：潜水目視調査（個体数カウント）

調査地点：1 号床止工～8 号床止工周辺

条 件：2 号床止工に簡易魚道を設置



4 月 29 日



5 月 28 日

写真 1 調査時の 3 号床止工の状況



図 1 調査位置図

3. アユの確認状況

アユは合計 4,942 個体を確認した。

下流の 3 号床止工での確認が最も多いが、1, 4~8 号床止工でも 300 個体以上が確認された。

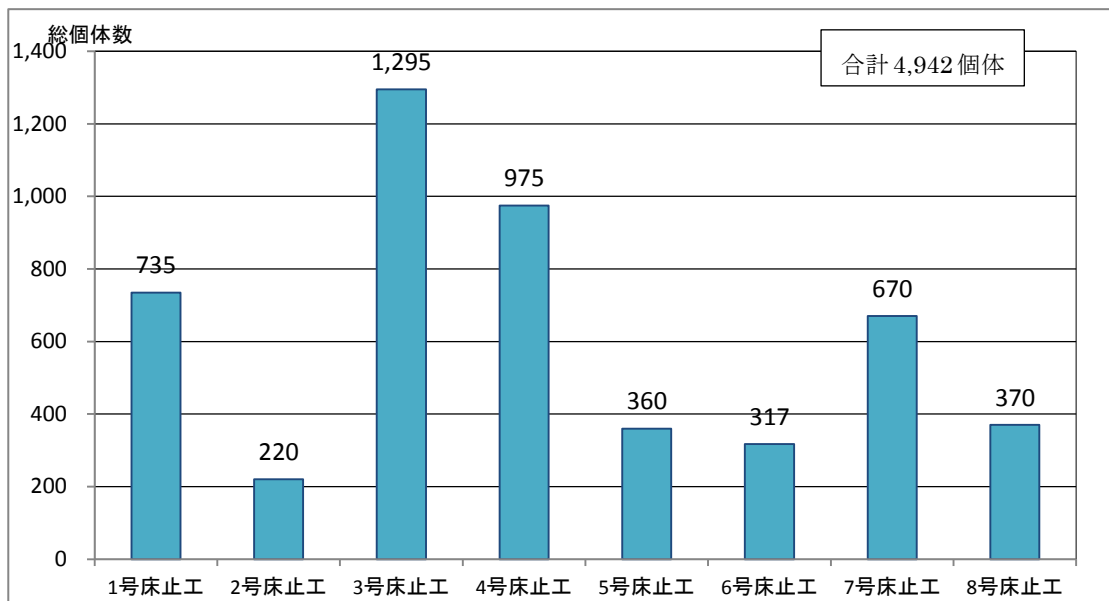


図 2 各床止工近傍のアユの個体数（4 月、5 月調査合計）

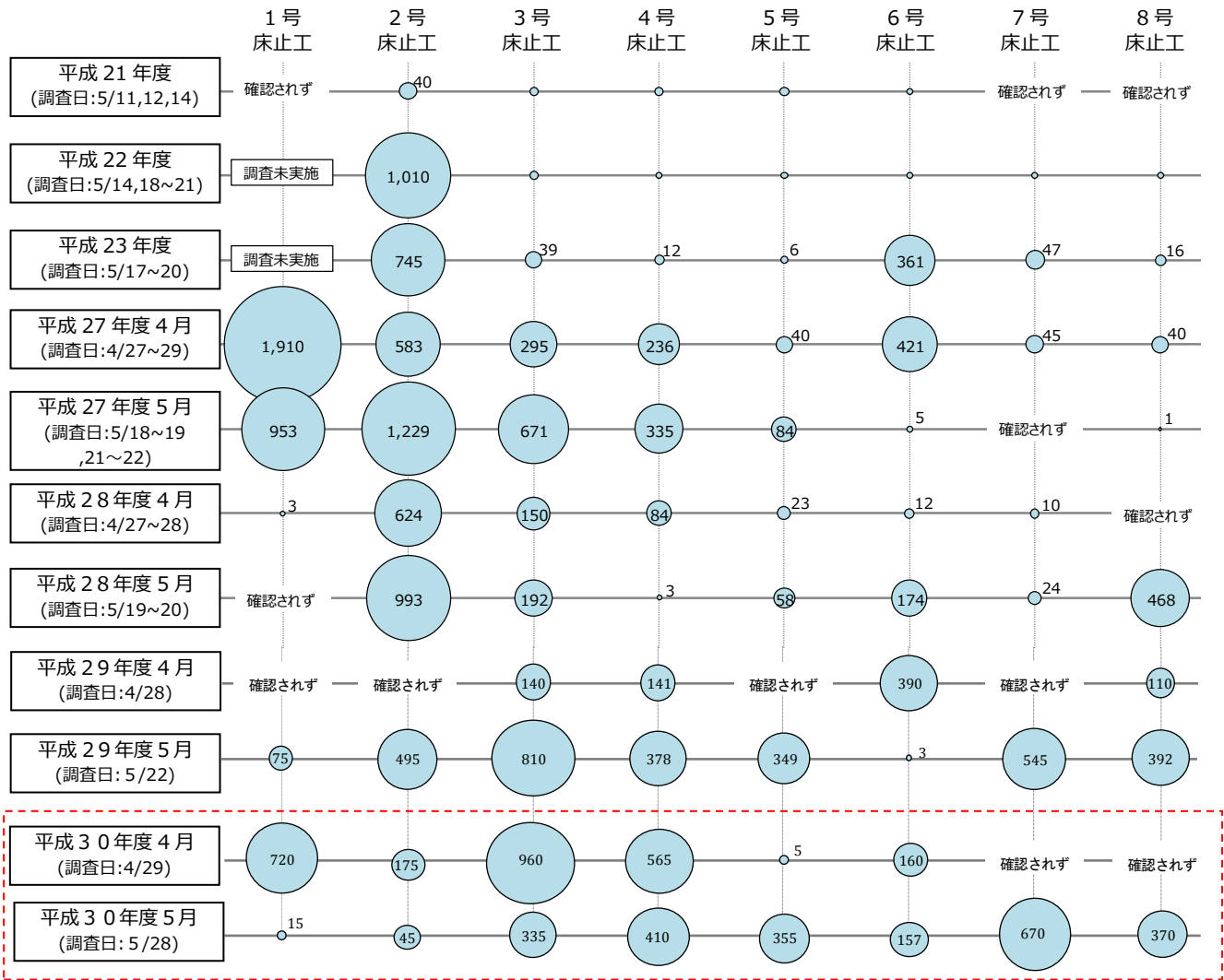


図3 各床止工近傍のアユの個体数

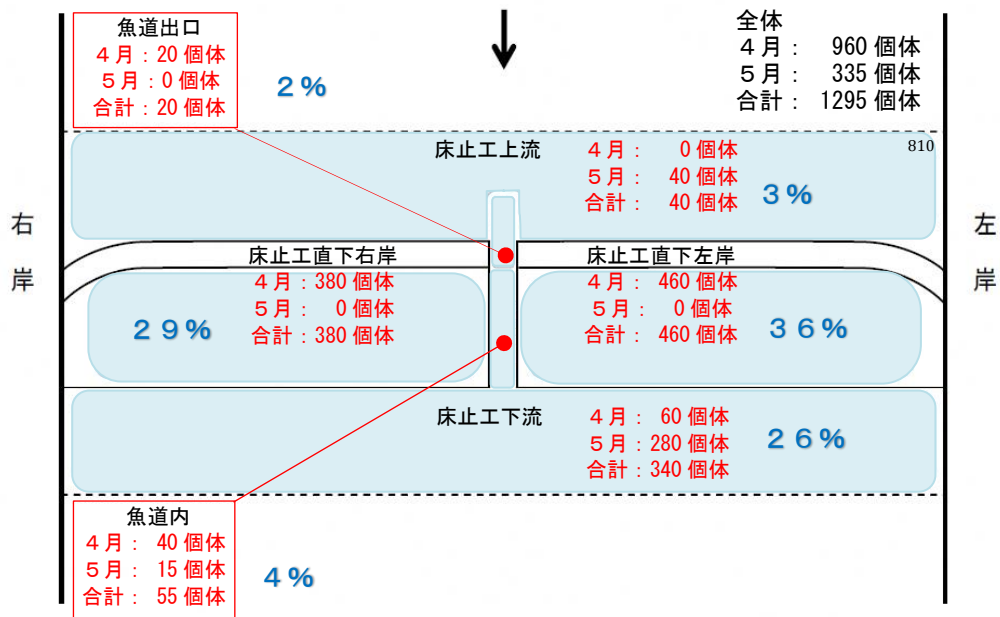


図4 3号床止工近傍のアユの個体数

4. 結果のまとめ

- ・確認できた個体数は、下流の3号床止工が最大であるが、1号床止工から上流の8号床止工にかけて、300以上の個体数が安定して確認された。
- ・4月時点の個体数は前年より多く確認されたが、下流部に多く見られ例年より遡上が遅い傾向が伺える。
- ・今年度は比較的水位が高かったことから、5月調査においては、どの場所にもまんべんなく生息している傾向が見られた。体長も例年より大型のものが多く確認された。
- ・平成28年度調査まで、最も多く個体数が確認されてきたのは2号床止工であったが、昨年に引き続き最も多く個体数が確認されているのは3号床止工であった。これは平成28年度末に2号床止め下流に設置した袋詰め玉石のせき上げ効果が遡上を容易にしているものと推測される。